

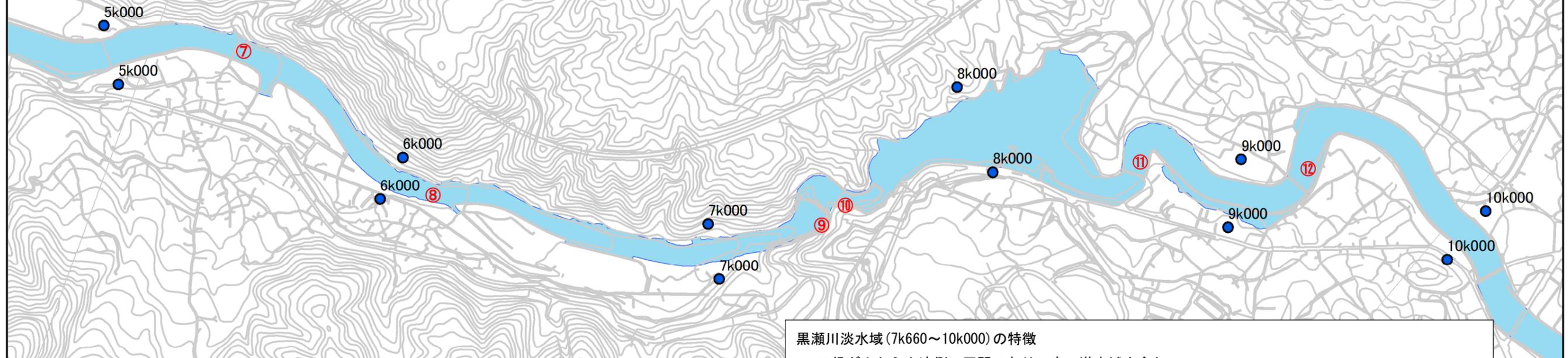


凡例

● 距離標

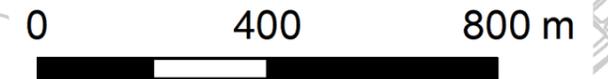
黒瀬川淡水域 (5k000～7k660) の特徴

- ・ 二級ダムから下流側の区間であり、上流側は二級峡として、渓谷状の様相を示す。
- ・ 二級ダムより下流の流水は少なく、取水した水の一部は 6k200 付近の左岸側で河川に戻る。
- ・ 河床は下流側で礫質、上流側で岩盤となり、川幅 30～60m 程度でほぼ直線的に流れる。
- ・ 河道内の植生はなく、右岸側の山地にはコナラ群落などの落葉広葉樹林が隣接する。
- ・ 周囲は下流側の左岸側に家屋が迫っており、右岸側と上流側は山地が迫る。
- ・ 家屋に隣接する左岸下流側はコンクリート護岸で覆われる。
- ・ キタキチョウ、クロアゲハ本土亜種などのチョウ目、セグロアシナガバチ本土亜種などのハチ目が生息する。
- ・ 条件付き特定外来生物で生態系被害防止外来種でもあるミシシippアカミミガメが生息する。



黒瀬川淡水域 (7k660～10k000) の特徴

- ・ 二級ダムから上流側の区間であり、広い湛水域を含む。
- ・ 河床は砂質で、川幅 50～90m 程度で、湛水域では川幅が最大 270m まで広がり、流入点付近では激しく蛇行する。
- ・ 河道内の植生はダム湖への流入部付近の中州にツルヨシ、セイタカアワダチソウなどの群落が見られる。
- ・ 周囲は両岸が樹林帯に覆われ、コナラ群落などの落葉広葉樹林やハチク植林の植林地が隣接する。
- ・ 水衝部はコンクリート護岸で覆われる。
- ・ キタテハ、キタキチョウ、ヤマトシジミ本土亜種などのチョウ目、ツクツクボウシなどのカメムシ目、アオマツムシ、ショウリョウバッタなどのバッタ目が生息する。
- ・ 特定外来生物のアライグマや条件付き特定外来生物のミシシippアカミミガメが生息する。



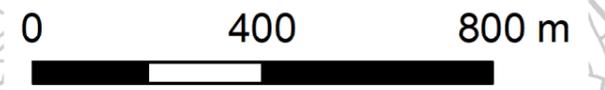
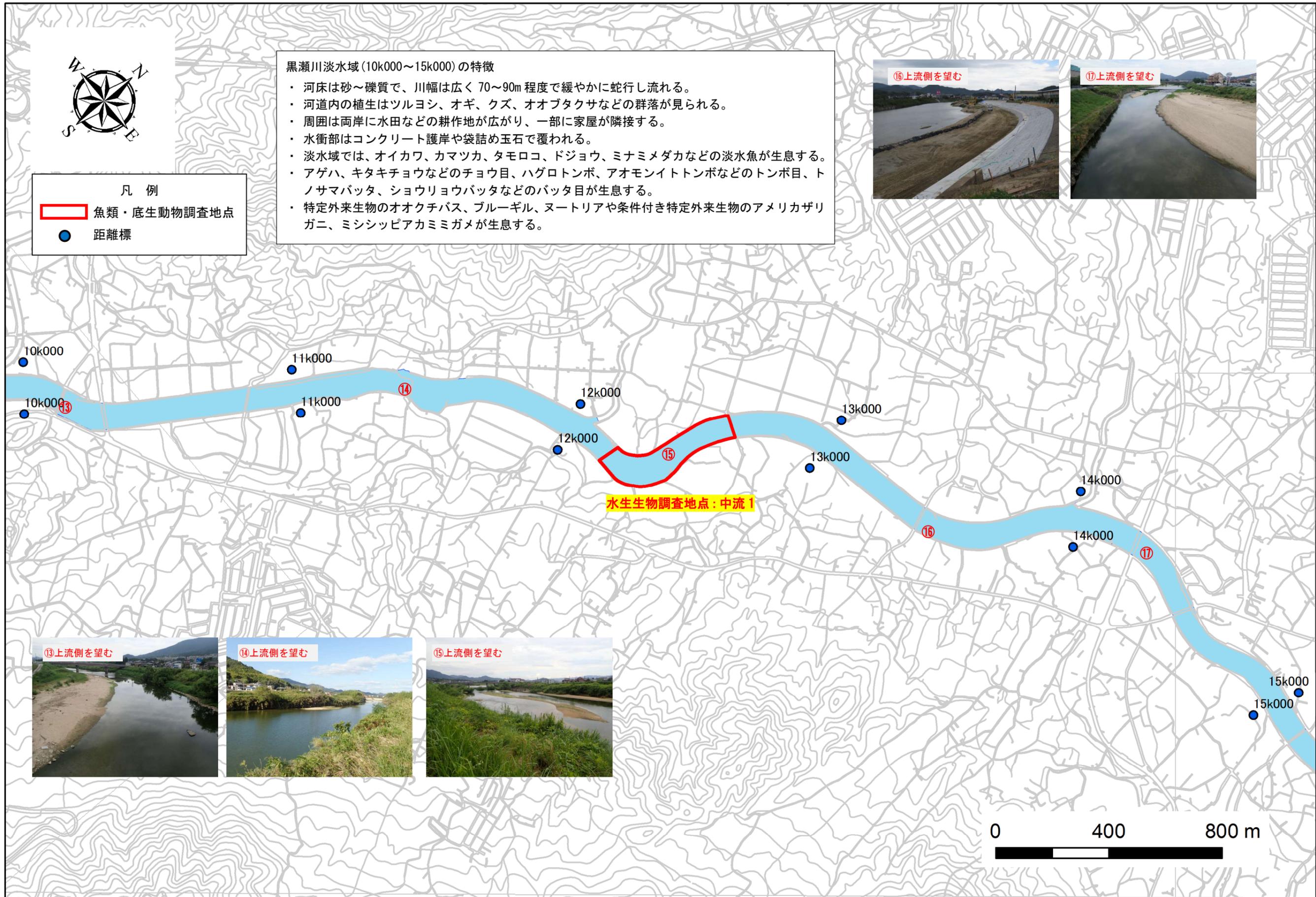


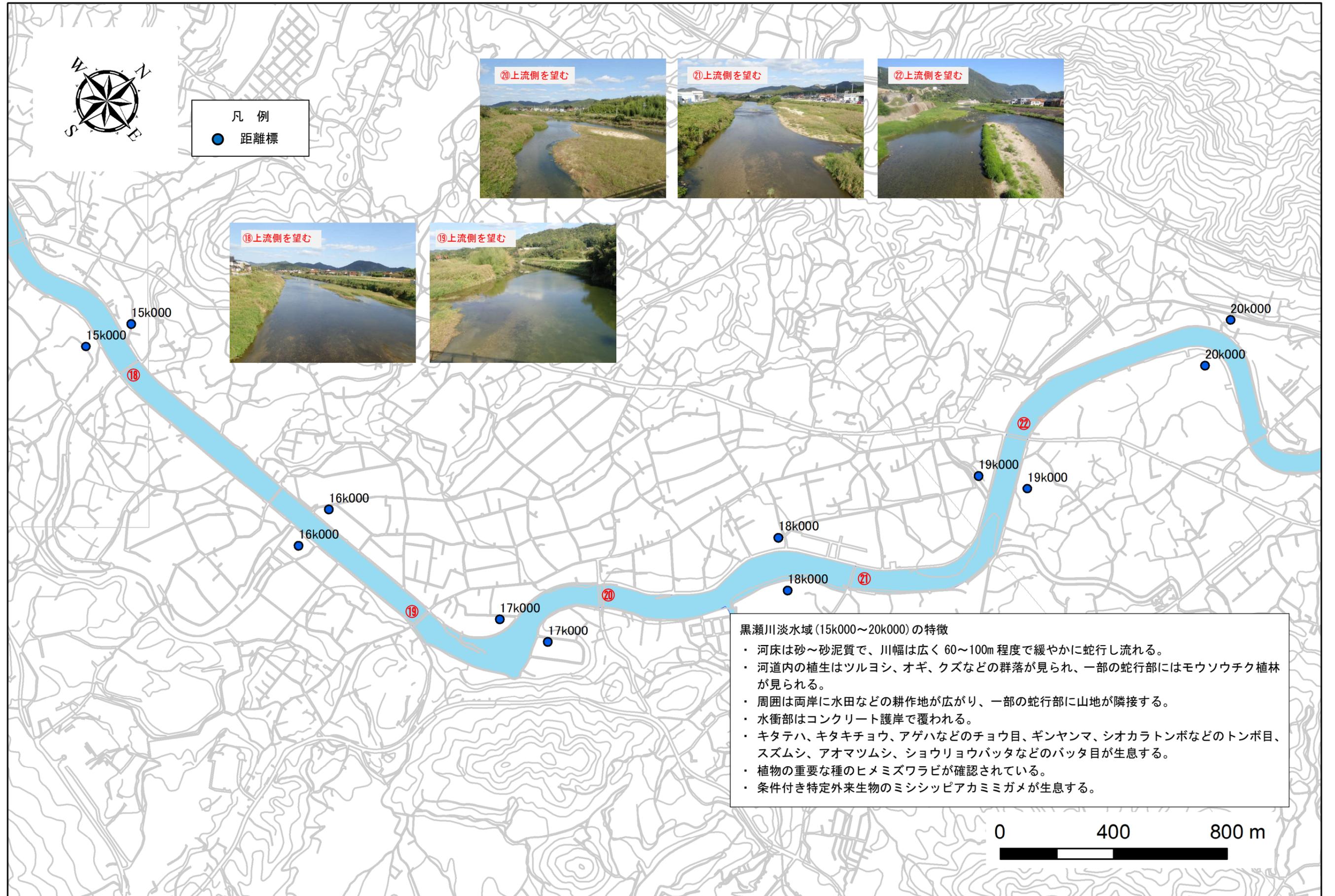
**黒瀬川淡水域 (10k000~15k000) の特徴**

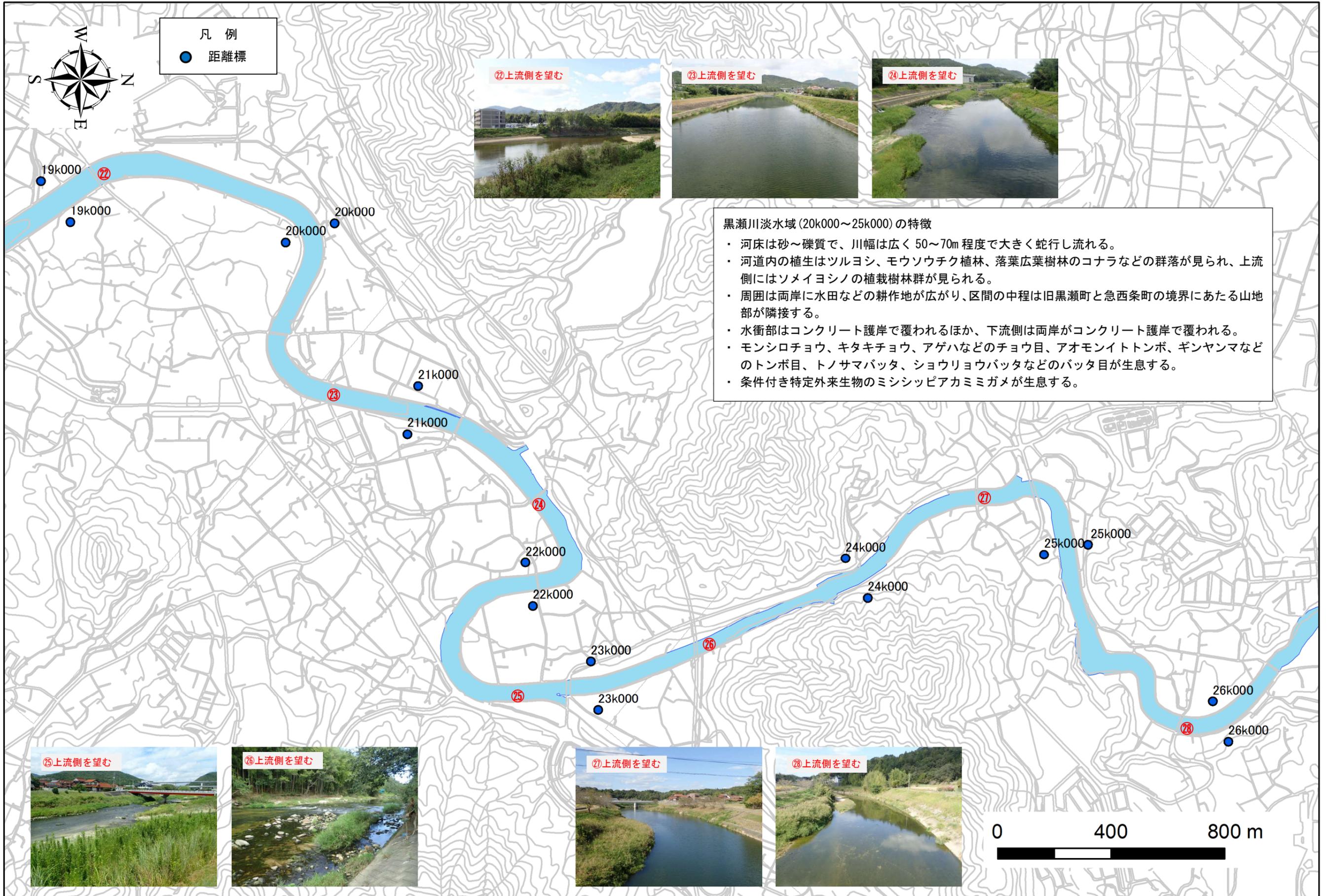
- ・ 河床は砂～礫質で、川幅は広く 70～90m 程度で緩やかに蛇行し流れる。
- ・ 河道内の植生はツルヨシ、オギ、クズ、オオブタクサなどの群落が見られる。
- ・ 周囲は両岸に水田などの耕作地が広がり、一部に家屋が隣接する。
- ・ 水衝部はコンクリート護岸や袋詰め玉石で覆われる。
- ・ 淡水域では、オイカワ、カマツカ、タモロコ、ドジョウ、ミナメダカなどの淡水魚が生息する。
- ・ アゲハ、キタキチョウなどのチョウ目、ハグロトンボ、アオモンイトトンボなどのトンボ目、トノサマバッタ、ショウリョウバッタなどのバッタ目が生息する。
- ・ 特定外来生物のオオクチバス、ブルーギル、ヌートリアや条件付き特定外来生物のアメリカザリガニ、ミシシippiaカミミガメが生息する。

**凡 例**

- 魚類・底生動物調査地点
- 距離標







凡例  
● 距離標

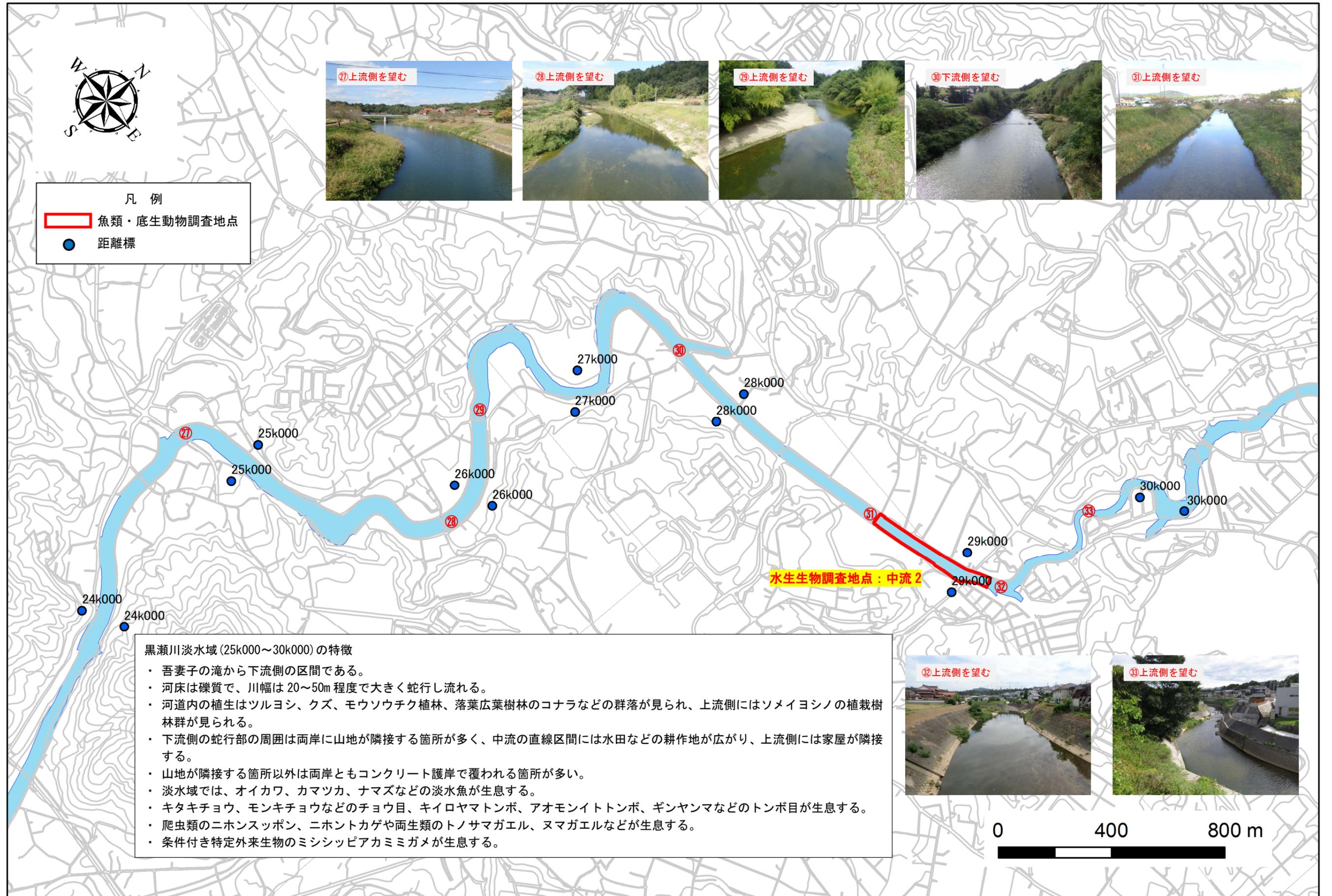


黒瀬川淡水域(20k000~25k000)の特徴

- ・河床は砂～礫質で、川幅は広く50～70m程度で大きく蛇行し流れる。
- ・河道内の植生はツルヨシ、モウソウチク植林、落葉広葉樹林のコナラなどの群落が見られ、上流側にはソメイヨシノの植栽樹林群が見られる。
- ・周囲は両岸に水田などの耕作地が広がり、区間の中程は旧黒瀬町と急西条町の境界にあたる山地部が隣接する。
- ・水衝部はコンクリート護岸で覆われるほか、下流側は両岸がコンクリート護岸で覆われる。
- ・モンシロチョウ、キタキチョウ、アゲハなどのチョウ目、アオモンイトトンボ、ギンヤンマなどのトンボ目、トノサマバッタ、ショウリョウバッタなどのバッタ目が生息する。
- ・条件付き特定外来生物のミシシippアカミミガメが生息する。



0 400 800 m



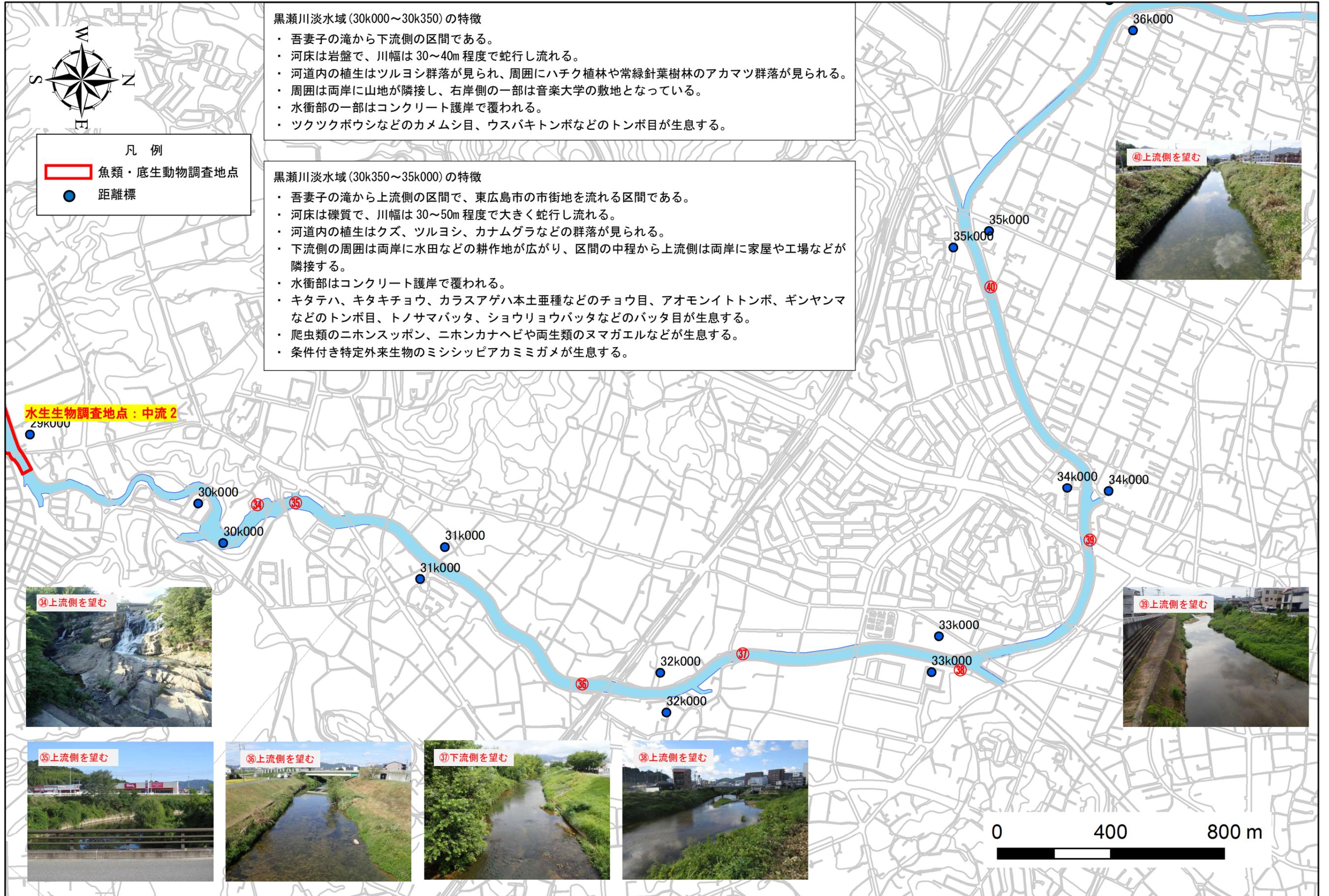
凡例  
 魚類・底生動物調査地点  
 距離標

黒瀬川淡水域 (25k000～30k000) の特徴

- ・ 吾妻子の滝から下流側の区間である。
- ・ 河床は礫質で、川幅は 20～50m 程度で大きく蛇行し流れる。
- ・ 河道内の植生はツルヨシ、クズ、モウソウチク植林、落葉広葉樹林のコナラなどの群落が見られ、上流側にはソメイヨシノの植栽樹林群が見られる。
- ・ 下流側の蛇行部の周囲は両岸に山地が隣接する箇所が多く、中流の直線区間には水田などの耕作地が広がり、上流側には家屋が隣接する。
- ・ 山地が隣接する箇所以外は両岸ともコンクリート護岸で覆われる箇所が多い。
- ・ 淡水域では、オイカワ、カマツカ、ナマズなどの淡水魚が生息する。
- ・ キタキチョウ、モンキチョウなどのチョウ目、キロヤマトンボ、アオモンイトンボ、ギンヤンマなどのトンボ目が生息する。
- ・ 爬虫類のニホンスッポン、ニホントカゲや両生類のトノサマガエル、ヌマガエルなどが生息する。
- ・ 条件付き特定外来生物のミシシippアカミミガメが生息する。



0 400 800 m



**黒瀬川淡水域 (30k000～30k350) の特徴**

- ・ 吾妻子の滝から下流側の区間である。
- ・ 河床は岩盤で、川幅は 30～40m 程度で蛇行し流れる。
- ・ 河道内の植生はツルヨシ群落が見られ、周囲にハチク植林や常緑針葉樹林のアカマツ群落が見られる。
- ・ 周囲は両岸に山地が隣接し、右岸側の一部は音楽大学の敷地となっている。
- ・ 水衝部の一部はコンクリート護岸で覆われる。
- ・ ツクツクボウシなどのカメムシ目、ウスバキトンボなどのトンボ目が生息する。

**黒瀬川淡水域 (30k350～35k000) の特徴**

- ・ 吾妻子の滝から上流側の区間で、東広島市の市街地を流れる区間である。
- ・ 河床は礫質で、川幅は 30～50m 程度で大きく蛇行し流れる。
- ・ 河道内の植生はクズ、ツルヨシ、カナムグラなどの群落が見られる。
- ・ 下流側の周囲は両岸に水田などの耕作地が広がり、区間の中程から上流側は両岸に家屋や工場などが隣接する。
- ・ 水衝部はコンクリート護岸で覆われる。
- ・ キタテハ、キタキチョウ、カラスアゲハ本土亜種などのチョウ目、アオモンイトトンボ、ギンヤンマなどのトンボ目、トノサマバッタ、ショウリョウバッタなどのバッタ目が生息する。
- ・ 爬虫類のニホンスッポン、ニホンカナヘビや両生類のヌマガエルなどが生息する。
- ・ 条件付き特定外来生物のミシシippアカミミガメが生息する。

**凡例**

- 魚類・底生動物調査地点
- 距離標

水生生物調査地点：中流 2



0 400 800 m



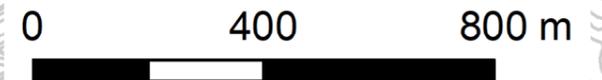
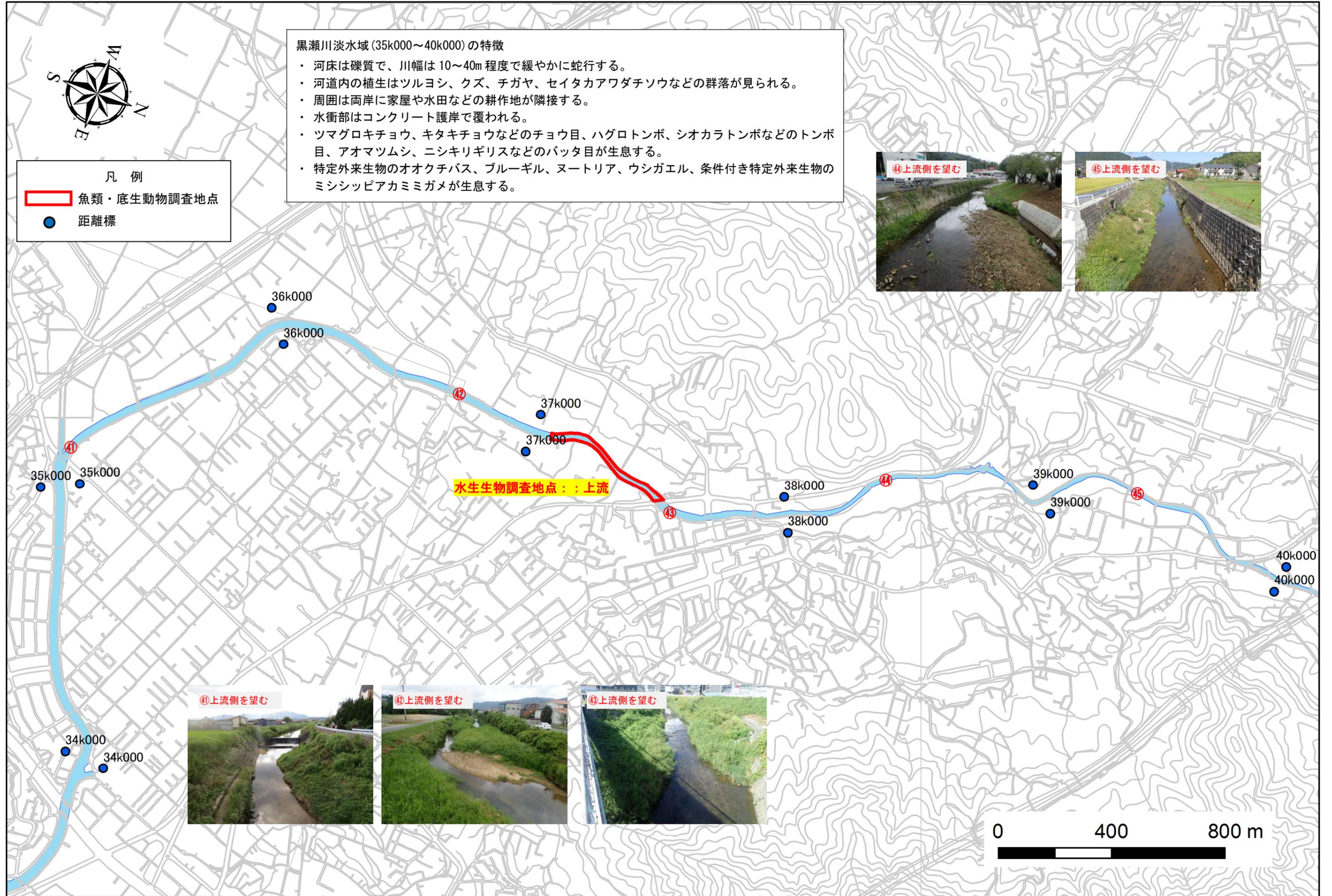
凡 例

魚類・底生動物調査地点

距離標

黒瀬川淡水域(35k000~40k000)の特徴

- ・ 河床は礫質で、川幅は10~40m程度で緩やかに蛇行する。
- ・ 河道内の植生はツルヨシ、クズ、チガヤ、セイタカアワダチソウなどの群落が見られる。
- ・ 周囲は両岸に家屋や水田などの耕作地が隣接する。
- ・ 水衝部はコンクリート護岸で覆われる。
- ・ ツマグロキチョウ、キタキチョウなどのチョウ目、ハグロトンボ、シオカラトンボなどのトンボ目、アオマツムシ、ニシキリギリスなどのバッタ目が生息する。
- ・ 特定外来生物のオオクチバス、ブルーギル、ヌートリア、ウシガエル、条件付き特定外来生物のミシシippアカミミガメが生息する。





凡例  
● 距離標

黒瀬川淡水域 (40k000~43k900) の特徴

- ・ 河床は礫質で、川幅は 2~10m 程度で緩やかに蛇行する。
- ・ 河道内の植生はツルヨシ、クズ、チガヤなどの群落が見られ、上流側の山地ではスギ・ヒノキ植林、コナラ群落などが見られる。
- ・ 周囲は両岸に家屋や水田などの耕作地が隣接し、上流側では山地が隣接する。
- ・ 水衝部はコンクリート護岸で覆われる。
- ・ 淡水域ではカワムツ、ミナミメダカなどの淡水魚が生息する。
- ・ キタキチョウ、モンシロチョウなどのチョウ目、ハグロトンボ、ウスバキトンボなどのトンボ目、アオマツムシ、ショウリョウバッタなどのバッタ目が生息する。
- ・ 哺乳類のタヌキ、イノシシや爬虫類のニホンイシガメ、シマヘビや両生類のトノサマガエル、ヌマガエル、ツチガエルなどが生息する。



0 400 800 m